京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十五年紀元二千五百七十二年
本紙定價 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金三十錢 ▲三ヶ月前金九十錢 ▲六ヶ月前金一圓八十錢 ▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金六十錢 ▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六六三番 振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

●飛び／＼日記

彩雲居丹葉稿

茜さす東雲の空を向いて松上の鶴が飛むだとの謂ひにもあらねば亦とんだ社會を得た？チナ欲ッ放れのせぬすじにもあらず、要は只、念者の餞な無性者の我儘が、斷の諸斷つて玆に四十有七年!!、古となく今となく聞き囓りたる事、浮み出づる事何呉れと唯筆の間に／＼書い附けて、爰飛び／＼のとび／＼日記たる所以を發揮する耳、結句貴紙のご厄介もの見ん人、幸に其心して。

舊臘廿八日と云ふに我が卯月會の明星渓水宇野俳宗突如浪花の地に榮轉せらるとて一別の挨拶にわせられき、折からの大風雪を犯して八時の夜行に發足すと云ふ、不取敢有り合す懷紙に駄句り附けてはなむけに代つ。

雪ひら／＼漂ふ年も君も行く

心足らぬまゝ又狂歌一首書添へる事とはなしぬ。

年と共に君やゆくらむ浪花江の
有米に家内喜に能き春占めそ

壬子元旦の試筆と云ふも嗚呼が間しけれど京新社編輯局裡の剛の者醉否な醉士呑樂坊埜邑の君に發送すべき年賀狀の端に。

『明けの居蘇からツイ醉ひ初めて
年のくれまで呑樂坊』氏へ—

新年の吉祥出度申納候、猶倍舊の御風交願上候。了。

仁川の菓子商寶亭主人、勅題新菓に添付すべき色紙數多持來りて何かものせよと乞ふゝ儘開が版下にもと戯歌一首ぬたくり申す事左の如し。

千代よばふ田鶴が音高くすむ空に
聳ゆる松の蔭のどけしも

肥り過ぎると誹はるゝに、此大役のた鉢が廻りて、下廻先生夜の目も寢ずの俄稽古、書抜きは舞臺の卓子や大道具に張りつけの、大汗の苦勞空しからず盲千人の觀客に大喝采、其の地の興行中は座の体面上、頭株に列することゝはなりしものゝ、給金は依然舊の下廻りの身上、小使錢にも困つた後の一策は、座長の眼を忍んで厳題振れの口上家、劇塲からの特別手當が有り難いと毎日之れを缺がさぬに、遂々化の皮は市中に剝がれて、道理で彼の庭園の塲のオセロが科白は口上屋めいたと、町々の是れ取沙汰。

△這れも同じく朝鮮には、縁薄からぬ壯俳の青柳一座、止せばよいに醉狂な畑違ひの『明烏夢の泡雪』新内の體淨瑠璃、何とやらいふ時次郎役者の、勿論、腹に呼吸なければ『男はかねて用意の一腰』で、直ぐと塀に面を出せば浦里役者も突と後を振り返つて、互に見合す顏と顏、既う堪うなつては流石に今更知らぬ顏も出來難く、此の處約五分間、淨瑠璃の文句の進むまで、時次郎は垣の上で眼を白黒、浦里は觀客に尻をくれた儘の立往生。

●粉吹雪

▲△生

△愛澤と言へば、ム、彼れかと朝鮮に馴染深き壯俳一座、折柄の出しものはた望みとあつて沙翁劇の『オセロ』と口上の振れ込みは立派なれど、樂屋の内は無人芝居の、一座の重立誰一人見覺しても肝腎のオセロに扮すべき者なきに、詮方なしの樂屋評定の果が、芝居道に蹈み込んで漸う一年に成るやならずの下廻り、延丁にしては多少身体が

外事一束

▲米國　民主黨間内訌を生じ所屬の諸派は前首領ブライアン氏の宣言を竢つ
▲伯林　這回の議會總選擧には社會黨勝利を得べき見込ありとの觀盛なるも
▲實際　に於ては政府及非社會黨共今回の事に依り社會主義打破の氣勢を示
▲歐洲　諸新聞千九百年の如き事態再生を恐れ北京天津鐵道の列國保護を求
▲北獨　アルゲマイチ如　例清國政治家の政治的智識を信じ清獨親交を主張
▲列國　居中調停を企つるも伊土兩國尚強硬態度を固持し戰闘繼續を公言す
▲英國　海軍卿直に海軍戰事局を組織すと宣言し之れに關聯する覺書を發す
▲獨逸　一等巡洋艦スラッチン號重要金庫中に所藏の秘密書類を竊取さると

梁川庄八（やながはしやうはち）

小金井蘆洲演

第七十五回

夫れから翌日になると陣屋の白洲に於て、才助の身元を調べました所が、生國は奥州仙臺當時は甲府柳町五臓圓源太夫と云ふ者の合宿に寄留して居る町住居のものでありますから、實は町方の裁判が至當なので、代官の係ではございませぬが兎も角も源太夫を呼出しまして役『此者は見知りの者か』源太夫はじろりと才助の顔を見まして、『左様でございます渡世上の懇意から暫く私方に逗留致して居ると云ふ丈の者でございます』と申上げました、そこで松村五太夫の陣屋から、甲府町奉行藤本下總守へ腰の物並に所持の金子を添へ本人を差立ました、夫から町奉行が下調をして見ますと、如何にも腰の物が立派で青龍屋風情などの指すべき物でございませぬ、而巳ならず血曇骨疵があるので人殺の盗賊は此者に違いないと、斯う藤本下總守も極て了ひました、随分不都合な者でございまするが、昔は斯う云ふ役人が澤山あつた者と見へます、甲府の町奉行所に於ては、いよ／＼若王子長左工門の伜勇吉並に親戚の作右衛門其娘お近等殘らず呼出に相成り、又才助は繩付の儘呼出して双方取調に相成りましたが、是とて素より前日代官の前の吟味と別に變つた事はございませぬ、そこで藤本下總守は才助に向ひ　下『其方長左工門の家に一宿致し家内の男女の居らぬを幸ひに、竊に長左工門を殺して金子を盗取り立退かんと致せし刻み夜の明方に相成り奉公人等が歸り來りし爲め立退き兼ね、勝太々も居殘つて後腹痛めぬやうに靜に立退かんと云ふ、其方の所存遂に地方代官松村五太夫の爲めに見顯はされて、當白洲の吟味を蒙むる場合となりしからは、最早遁るゝこと叶ふまじ、其夜の人殺し其外の舊惡悉く白狀して罪に伏せ　才『エー恐入りましたる只今のお尋問御疑ひ御尤ではありますが、私に於ては聊かも左様な覺へはございませぬ、外々の御吟味を願ひたう存じまする　下『其方左様申しても通れぬ證據があるぞ　才『何を以て證據を遊ばされますか　下『其方の腰の物に血曇骨疵がある、又其方の懐中に莫大なる所持金がある固より些かなる渡世を致す其方が斯ばかりの大金を所持致し居る道理はないのみならず、其中の鑄替金百兩は其方等の所持致すべき金ではない、兎に角長左衛門の家にて金錢を取らずとも外々の家にて強盗を働いたる罪跡最早確かに認めて居るぞ恐入つて罪に伏せ』と威猛高になつての奉行の吟味、才助は面を擧げて役人を打眺め　才『其れ尋問はあるべき事と存じまする今は包まず事の次第を申上げませう、其血曇骨疵と申しますは當年四月の下旬、其日は忘れましたが甲州小佛峠に於て江戸金吹町の商人丸屋傳左工門一家の者が身延に參詣の途中、小佛峠に於て賊に出遇ひ難儀致し居る所へ私通り掛つて賊を斬り手傷なぞ負はせたに依り、其刻み身刀に血贓骨疵が出來ましたので、其儘血拭ひして帯びて居りました故、右等の御嫌疑を蒙ることかと心得ます、又成程鑄換金百兩は私所持致すに於ては御嫌疑も御尤なれども、是れは其難儀を助けた報酬として、勝沼宿旅人宿太田屋吉左工門方に泊り居りしとき、貰受けた金子でございます、其外百三十餘兩の金子は是れは私の貯上金でございます尚ほ御疑念の晴れずとあらば、勝沼の旅人宿太田屋吉左工門を御呼出の上御取調を願います』と申上げると奉行は聲荒らげ　下『默れそれは其方が此場を遁れん爲め拵造事を申立るであろう、無益な證人は當方にては呼上げんぞ、天下の裁判に日數を費させ公儀の御物入を顧みず、兎角裁判の長引くことを計るは、是れ賊を働くもの丶常の業ちや、左様なる證人を呼上げ取調べる必要はない、只今は其方に就ての吟味である、恐入つて罪狀に伏せいよ／＼虚僞を申立て上役人を欺くに於ては牢問拷問を申付くるぞ』才助は俄かに面色を變じ　才『這は思いも依らぬ御理解を承はりまする者で、世間の罪人は悉く虚僞を申立ると極つては居りますまいよし虚僞と思召しても一應は某の申し立を御用ひあつて引合人を取調べ其者の申す言葉と某の申言葉と吟違ひ居れば上を僞りたる、廉を以て牢問拷問に掛けられるも餘儀なき次第、併し斯様申しては恐入るが牢問拷問なんと云ふことは、是れは上役人の手際とは申されますまい、夫れも兎も角、何の廉を以て牢問拷問を仰付けられますか、征夷大將軍の御目鑑に依て、當國三十六ヶ町を預る御町奉行の御言葉には不似合千萬と存じます』と述立る。



東京電報

▲國會開議同意　十二日着上海電報に曰く袁世凱は革軍の要求を容れ上海に國民會議を開き政体を決定することに同意せりと

▲伊犁獨立宣言　伊犁は獨立を宣言せりと十二日着北京より電報ありたり

▲革軍北進開始　武昌の革軍北伐隊一千名は十二日前進を開始せる旨公報ありたり

▲整理局と臺灣　臨時制度整理局にては舊冬來各方面に向つて調査材料を蒐集しつゝ整理案を立てつゝありしが今回臺灣總督府の特別會計を廢し約一千萬圓を國庫收入に繰入るゝ案成りしといふ

▲革軍の募兵　革命軍は南京上海蘇州に於て二萬の兵を募集中にて武昌及び北伐軍に派遣すべし

▲西藏獨立勸告　英國政府は拉薩に於ける達頼喇嘛に照會し西藏を獨立せしむる計劃中なり

北京特電

▲連山灣の警戒　官軍は革命軍が連山灣附近に上陸せんことを豫測し九日以來軍隊を錦州方面に派遣せり

▲伊犁の叛亂　伊犁新軍は與安府及同地將軍衙門を燒拂ひ勢猖獗を極む

▲奉天新聞社破壞さる　奉天北門外の東三省日報社に四十名の巡防隊兵侵入し主筆總辨及宿直員三名に重輕傷を負はせ家屋全部を破壞せり

上海特電

▲黎官軍に要求　黎元洪は漢口英國總領事の手を經て官軍に對し漢口漢陽に於ける警察の行政權製砲廠及同地鐵道管理權を漢口商務總會に引渡さゞれば講和を進行せしむること能はずと要求したるが官軍も結局承引することとなるべし

▲官軍引揚了る　漢口駐在の官軍は全部引揚を終れり

▲武昌交通杜絶　目下武昌は革軍戰備の爲め再び一般交通杜絶の狀態となれり

廣東特電

▲海路北進革軍兵力　司令官姚良平及參謀長逃雄洲指揮の下に革命軍戰艦海容海琛海籌の三隻に護衛せられ商船數艘に分乘し秦皇島を衝かんとて出動したる北伐軍の兵力は歩兵二營（最新式五連發銃携帶）工兵一營輜重兵一營騎兵一營及び爆裂彈軍機關銃隊赤十字隊各若干なりといふ

雜報

●各種徴税成績　度支部調査に係る四十四年度所屬内國税及驛屯賭收入徴收狀況を聞くに左の如し（十二月末現計）

	調定額	收入額	未濟額
地税	六、三〇六、四三九	五、八九〇、二〇八	四一六、二三一
戸税	七〇三、一三八	六九四、〇四四	八、八三三
家屋税	一六一、一三三	一二四、四一〇	三六、七九九
酒税	二六七、二七四	二四九、二四〇	一七、八九二
煙草税	二六六、〇〇二	二四〇、四三〇	二五、五四三
鑛税	一二三、九七六	九六、九七七	二六、二二〇
雜税	四五、〇〇四	三七、八一八	七、一〇一
合計	七、九八二、〇六七	七、三三三、一二七	六三六、六五〇

右によれば四十四年度の歲入豫算七百六十六萬五千六百十一圓に對し約九割五分の收入なりと云ふ尚驛屯賭收入は調定額百十六萬九千四百八十二圓收入額九十九萬六千四十三圓收入未濟額十七萬二千六百十九圓にして其徴收の割合八割五分なり

●鐵道通過鮮滿間貿易　四十四年一月より十一月末に至る朝鮮新義州より對岸淸國安東縣に輸出せし主要貿易品は米、大豆、雜穀、牛皮、木材等にして此價格百十一萬圓なり尚内地より朝鮮鐵道を通過して滿洲へ輸出せられたる重要品は淸酒、金巾、其他の綿布煙草にして此價格六十六萬四千圓なり而して滿洲より新義州へ輸入せられたる重要品は食鹽、支那酒、木材等にして此價格五十四萬五十圓にして滿洲より朝鮮鐵道によりて内地へ輸入せられし貨物は大部分柞蠶、繭糸にして其價格十五萬圓余に達せりといふ

●總督の實業家招待　寺内總督は十二日午後六時より官邸に於て在京實業家の主なるものを招き新年祝宴を開き出席者は宇佐川總裁、岩佐、林、井上の三理事、市原總裁、水越、木村二理事、佐野百三十、足立十八、竹山第一の三支店長、古城民長、深水會議所副會頭、中村再造、和田常一、山口太兵衛、杉山孝平、岡崎日韓瓦斯電氣專務等なりといふ

●内務部長會議日程　内務部長會議は來る十五日午前十時より司法部會議室に於て開會する事に決定せしが會議中は政務總監統裁の下に各部長官警務總長並に關係局課長出席し指示事項は主務長官より說明を爲す由

▲一月十五日（月曜日）第一、寺内總督の訓示第二、長官の指示第三、總務部主管に屬する同務部長官提出

▲一月十六日（火曜日）第一、内務部主管に屬する諮問事項第二、内務部主管に屬する内務部長提出意見

▲一月十七日（水曜日）第一、内務部主管に屬する内務部長官提出意見

▲一月十八日（木曜日）第一、農商工部に屬する諮問事項第二、農商工部主管に屬する内務部長提出意見

▲一月十八日（金曜日）第一、度支部に屬する諮問事項第二、總務部内務部農商工部以外の部局に屬する内務部長提出意見第三、各部局事務打合

●定例長官會議　十二日午前十時より總督府に於て定例長官會議を開き寺内總督山縣政務總監倉富石塚大屋池田の各部長官明石總長俵副總裁宇佐美内務部長官小松總務部長官菊池鈴木の兩長官代理列席政務の打合せを爲し同十一時散會

●去月中の京城出入重要品　京城税關出張所を通過したる京城に於ける輸移出入品の計額は既報せしが今其品種別を揭ぐれば左の如し

▽輸出及移出品之部▽

牛皮	二、三九
其他諸品	七六九九
合計	八七六

▽輸入及移出品之部△

品名	價額	品名	價額
小麥	一三五四	粉果實及種子	二三九六
鹹魚	四〇二八	罐詰饅詰食物	一八九六
砂糖精糖	二五〇七〇	淸酒	四四一二七
麥酒	二一五	雜酒類	二〇八九
蠟燭	一一七	綿絲打綿	五〇一〇
綿織糸	三六九八六	生金巾	一七九〇四〇
晒金巾	一九〇八二	天竺布	二四〇
日本木綿	一〇三五四	麻布	四八二〇
毛織物	八四九二	絹布	一〇〇九二
交織布	三〇一四	靴物	一六九三七
紙	二八八四七	諸文具	五一二三
書籍雜誌	七〇八六	熟鐵	四七六
軌條附屬品	一五〇〇	鐵管	三八三
鐵釘	二七	鐵鍋釜	五七三
諸機械類	一四六三六	煙草	二六三九
陶器磁器	四四三	木材板	七一三
叺籠筵	一二四九	家具	五八八四
燐寸	六三一七	木製品	三三九一
洋傘	三二八	其他諸品	二〇三三八七
合計	九一七九二四		

●中央試驗所の組織　明年度に於て新設さるべき中央試驗所は大連にある南滿鐵道會社が經營しつゝあり成績の極めて良好なるに鑑み今回總督府にても從來工業傳習所にて小規模になりて來りし者を中央試驗所の事業とする等にて織物染物陶磁器の窯業及醸造、應用化學、有機無機の分析等にして度支部に屬する醸造所も中央試驗所に合すると同時に鑛務課に屬する鑛物分析所も均しく試驗所に附屬すべしと云ふ

●土地證明申請注意　從來鮮人等にして京城府廳に土地證明を願ひ出づる場合に於て其の證明申請書中に唯坪數のみを記載し地盤及種目等を記載せざるものあり爲めに事務の進捗を妨ぐること大なりしが這回總督府訓令を以て結數連名簿取扱手續發布され一月一日より實施のことゝなりたるに就ては爾今土地所有權の證明を得んとする者は税務官吏の結數連名簿の照合を求めざれば證明を與へざることゝなりたれば該證明申請者は必ず申請書に坪數は勿論地盤斗落日耕數及び結負等を殘りなく記載すべく然らざれば税務官吏に於て申請者に照合を與へざることゝなり從つて申請者に於ては證明延延し證明係に於ては事務の進捗を妨げらるゝこと大なれば申請者は注意すべしと

●在鮮官吏濟生會寄附　客年恩賜財團濟生會組織せられ官吏中高等官に在つては應分の寄附金を爲すことに決し朝鮮に在勤する者（朝鮮人官吏及待遇官吏は任意）も各其の俸給の割合に應じ寄附の申込をなせしが其の申込人員七百七十人に上り每月の月賦納金額三千八百圓に達したりと

●各銀行會社營業成績（其七）
明治四十四年下半期
▽韓一銀行▽
……支配人金鎭玉氏談……

韓一銀行に於ける四十四年下半期の營業成績は預金總額五十五萬九千八百十圓貸出總額十六萬四千四百五十九圓利益金は前期繰越しを合して四萬二千九百四十一圓にして之れを前年同期に比すれば預金に於て一割八分を減じ貸出に於て三割餘を增加し利益金は五分の增加を示し居るが同期に於て斯の如き成績を示すに至りたる原因は恰も同期に於て鮮人間に各種企業熱の盛んなるに至りしと共に米穀の買出し等の爲め資金の需要繁忙を極め且つ地方農民が米穀の賣惜みをなしたる爲め自然之れに對つて放出されたる資金の回收は例年に比して其の期間長きに涉りたるにあり尚ほ利益金に至りては同期に於て穀物市場として有名なる江景に於て支店を新設するに至りたるを以て夫等の準備等に要せし資金も尠少ならざりし爲め前期繰越金を合せて上述の如き增加率を見るに至りたる結果を生せしなり云々

●京城府の證明事務　京城府廳土地證明係に於ける十二月中の土地證明取扱件數は舊受即ち前月繰越のもの千八百九十七件新受千〇七十五件計二千九百七十二件にして其の内證明濟のもの千五百八十件未處分千三百九十二件なるが其の未濟件數中所有權證明事件の件質にして當然法廷期間の揭示を要するもの千百八十一件にして之れに申請書に不備の點あり當業者を招喚するも出頭せざる爲め處分を行ふ能はざる件數二十八件合計千二百〇九件を除けば純粹に未濟の件數は僅に百八十三件にして而も之れ月末受附に係るものにして該證明事務は成績良好なり因に四十四年中に於ける證明總取扱件數は一萬六千六百四十四件内未濟千三百九十二件なりと

●京城府の執行事務　四十四年一月より十二月末日に至る一年間に於て京城府廳に於て取扱ひたる土地其他不動產の強制執行件數は前年より繰越しのもの廿四件同年中に受附のもの百四十八件合計百七十二件にして其の内僅に十三件の未濟を殘し成績進捗を示し居ると云ふ

●紅參取引不振理由　昨今南淸地方に於ける朝鮮紅參は動亂の結果從來一斤約百圓の價額のもの百五十圓に騰貴したる爲め取引皆無なりと唱ふるものあれど三井物產京城出張所に就いて聞く所に依れば紅參の主なる販賣先は上海香港にして目下同地方の取引皆無なるは事實なるも人參は芝罘所在の三井物產倉庫に貯藏し置き需要ある毎に係に所謂開盤と唱へて百斤千斤を取纏めて相場を定め之れを賣渡すものにして決して價額騰貴の爲め取引皆無となりしにあらず只動亂以後は南淸各地の藥種業者にして之れが賣渡を希望する者なく自然値段も目下は立ち居らざる有樣なりと

●京畿道内通學生數　京畿道廳調査に係る管内内地人及朝鮮人各種學校生徒數は二百四十四校二萬八千八百二十六人にして其外書堂千五百三ヶ所一萬千八百三十人國語夜學會四十七ヶ所千七百五十三人にして内譯左の如し

公立普通學校四六校五五七七人、私立普通學校二三〇校一五五五四人、内地人小學校一九校六二五九人、高等女學校二校四一六人、專門學校一校四三人、内地人實業學校二校二九四人、鮮人實業學校五校二七二人、各種學校三校一六四人、幼稚園三園二四七人、

●肺ヂストマに就て
……警務總監部衞生當局者談……

肺ヂストマは由來朝鮮各地に蔓延せるが本病は多く慢性的に經過するを以て世人の注意を惹くこと急性傳染病の如くならずと雖も年々多數の罹患者を出し而かも荏苒經過して數年若くは數十年に涉るものあり此の如きは各個人の痛苦なるのみならず國家產業上に多大の影響を及ぼすこと他の諸種傳染病に遜ることなし最近の調査に依れば忠淸南道林川郡林川邑に於ては百人中八十八人を咸鏡南道高原郡及永興郡の一部落は百人中八十人の該患者を出せるが如き實に寒心すべきことなるを以て之が撲滅に關し考究中なるが其の一般の症狀は慢性に經過する呼吸器病にして其の初期には殆んど病症を呈せざるも漸次朝起時に際して輕度の咳嗽咯痰を發し後には少しく勞働を爲すとき是等の症狀增激するに至る咯痰は血液を混じ粘稠にして鮮紅色なるものあり或は暗赤色なるものあり又は赤褐色となるものあり之を顯微鏡にて檢すれば黃褐色にして卵圓形を呈する卵子を認む患者は初は格別病苦を感せざるを以て職業に從事し居る者あり甚だしきは自ら罹病せしことを知らずして經過する者あり然れども漸次病症進めば貧血を起し終には往々餘病を併發して死亡するに至る而して傳播の狀況に就ては今尙ほ不明に屬すと雖も患者の咯痰中に存するヂースマ虫卵が水流に移行し一定の介魚（鮮名川貝子等）に寄生し階級的發育を遂げ再び水中に出で此處に生育する魚介植物等に附着し其の媒介に依り人体内に入り以てヂストマを發生するものゝ如し依て本病流行地に在りては一飲料水は煮沸して用ひること一魚介類及土地に產する野菜は生食せざる事一濃渠及排水溝の疏通を計り死水を停滯せしめざること一咯痰の散亂を防ぐこと等に注意すべきなり云々

●東拓第二期の殖林　東拓會社が黃海道鳳山瑞興平山黃州金川及京畿道豐德郡各地方に於ける國有山林九千七百七十七町步の貸下を出願して第一期殖林計畫を爲したるが昨春に至り漸く許可濟みのもの僅かに約四百町步のみなるも取敢へず殖林に着手し内百五十七町步は既に殖林を了へたれば本年其殘部を完成すべく尙本年中許可を受け次第直ちに殖林すべく同時に同地方民有林八百町步を買收し居れるが這は儘造林し得べく更に第二期計畫として天然稚樹存在するを以て補殖を行ひ其は何れの方面を選むべきかに付目下頻りに各方面の國有山林調査及詮考を爲し居れり尙黃海道各方の未出願にかゝる國有山林につき近々調査の上續々出願殖林の方針にて是等並に一期計畫の殘分に要する苗圃の追加を要し追て貸下許可を待ち第二苗圃仕立てを考案し居れり

●飲料水等取締細則　ラムネ、サイダ等清涼飲料水及氷雪販賣等の營業者取締規則施行細則は十二日警務總監部令第一號を以て發表されたり

●京城民團人口增加　京城民團内に於ける十二月末の内地人戶口は人口四萬七千九十八人戶數一萬三千三百三十八戶にして之を四十三年十二月末に比すれば戶數に於て三千四百八戶人口に於て一萬九百三十七人の增加なりと云ふ

●商業會議所總會　來る十六日午後一時より當地商業會議所に於て臨時總會を召集し曩に役員會に決議したる穀税撤廢問題及道路擴張其他二三の事項に就き協議すべしと

●商工調査會開催　來る十六日午後三時より當地商工調査會を開催すべし

●京畿道府尹郡守會議期　京畿道に於ける府尹及郡守會議は二月上旬道廳に召集開會する由

●東亞煙草製產額　朝鮮に於ける東亞煙草會社昨年一ヶ年間の生產品價格は百二十一萬三千二百二十餘圓なりしと

●小原地方局長の出張　小原地方局長は新庄通譯官を隨へ十日出發全羅南道方面に出張したるが來る十四日の内務部長會議開會日迄に歸任すべしと云ふ

●澤代議士の總督訪問　滯京中なる代議士澤來太郎氏は十一日午後一時寺内總督及山縣政務總監を訪ひ昨年來國民黨政務調査會より依頼しありたる各種の調査事項の内容說示を受けたり

●澤代議士の出發　滯在中の國民黨代議士澤來太郎氏は十二日上田中將を軍司令部に訪問し同夜九時四十分南大門驛發列車にて滿洲に向ふ

●山根正次氏東上期　總督府囑托山根正次氏は來る十六日頃東上すべしと

●仁川驛去月收入　昨年十二月中仁川に於ける乘車人員二千九百三十人降車人員三千八十一人發送貨物二萬六百四十噸にして客貨車收入合計四萬二千三百二十七圓三十八錢なりと

●仁川驛上旬收入　仁川驛に於ける本月上旬乘車人員九百七十八人降車人員九百五十八人にして客車收入千七十一圓四十七錢貨車收入五千三百三十七圓九錢なりといふ

●南大門外道路工事の進捗　南大門より停車場前に至る道路取擴め工事は目下嚴寒期なるに拘らず支障なく進行し現に全工程の約半分は終了し居れば豫定の期間内に竣成し得べきも只南側家屋取拂ひすべき部分だけ稍遲るゝならんと云ふ

●黃金町通道路用地買收　黃金町通道路擴張に對し用地の買收家屋の移轉關係地主は九十五名なるが内二十三名は承諾せりと

●製紙會社業務開始　京城靑坡なる朝鮮製紙會社にては工場建築及機械据付等内部の設備全部完了したるを以て十日より愈々業務を開始せり

●鮮直通列車乘客　十一日午後八時三十分南大門發長春行列車には日本人四名外人一名朝鮮人一名乘込み十二日一時二十分長春發南大門着列車には日本人二名乘込みたりと

●授產場の桑苗養成　京城府外本道八ヶ所の授產場にては苗圃を設け近日桑實生苗を養成しつゝあるが苗圃の反別四町六反八畝にして之に播下せる種子六斗二升を要せり而して苗木生產數は約百四十萬七千本の見込なりと

公人私人

▲田中遷（黃海道内務部長）　十一日投宿浦尾

▲小笠原金三郎（釜山府事務官）　同出發釜山

▲京城手形交換高▼

	金額	枚數
一月十二日	二一〇、八八五、四六〇	三七三

▲治外法權▼

支那の革命もトートー二年越になつた、併し今尙ほ袁世凱が最後の決心を附け得ぬ爲に、アレヤコレヤで埒が明かぬ▲黃興等は媾和談判の破裂を寧ろ快とし、北上一擧北京を衝かんと準備中だソウだが、先立つ軍用金はドーして作るだらうか▲勿案、孫逸仙や伍廷芳にはカアチギーが附いて居る、彼等は中華民國政府の名に仍つて壹億圓の公債を賣出さんとして居る、而して該壹億圓の大部分はカアチギーが一手で引受けることになつて居る▲カアチギーと云へば、彼れの財產は幾ら有るか知れぬ、彼れ曰く、苟も人間たるものが富を抱へて死ぬのは罪惡だと、而して彼れは今日までに四億四千萬圓許りを、人道の普及と學術硏究獎勵の爲とに寄附した▲之れを以て見るに中華民國建設の事業は一種の人道普及事業にして、カアチギーの爲には恰好な寄附目的物だ、彼れが一億圓位の民國公債を一手で引受け而して償還金を其儘新共和政府へ寄附するが如きはナンでも無い事であるのだ▲設置以來只の一回だも會議を開かざるが爲に、世人からは其存在を忘られた中樞院も、寺内總督だけには其存在を記憶されて居るものと見へて、顧問李完用以下が、十一日總督邸の新年宴會へ招待された▲李完用や其他や用ふべきの士なるや否や記者之れを知らずと雖も既に中樞院を置く以上、开を統治機關の一部として働かすが當然の事だ、況んや鮮人の政治思想、日一日と進歩する今日に於てをやだ▲記者中樞院に關し、有識鮮人より不平を聞くこと多し、故に序を以て茲に一言を加ふ▲大阪時事報じて曰く、寺内總督は此程或所で任期六年を確言して大に朝鮮の爲に盡すとの口吻を漏したソウだ、六年と云へば十二年の半分だから、本人にして辛抱さへ出來ればソレも良からうが、ソンナ不了簡を出さぬが、爾爲であらうよ▲何と云つても一度は總理大臣の候補者にまで推された寺内御前だ朝鮮で六年だなどと弱い音を吐かずに一日も早く行李を片附け、中央の舞臺へ打つて出たが良いよ。

鴨綠江の橋と氷 (七)

天眞生

新義州が京義線の終點驛で日清兩國の國境たる鴨綠江の左岸にある位の事は説明する要もなかるべし、滊車は驛を放れて僕が見んと欲する鴨綠江に近づきつゝあるなり、即ち起ちて車室外に出づ、氣、霜の如く、月光燈下の白刄の如し、警笛江岸に谺して滊車は疾く既に鴨綠江上鐵橋中に在るなり、寒氣未だ嚴しからず氷上坦として砥の如きを見る、失望落膽、僕は有のまゝに白狀すれば今人古人がものしたる書き物に見て江上氷塊累々或は山を成し或は谷を成し龍となり虎となり川となり海となる、奇々怪々の壯觀偉觀たるべしと期待したりき、然るに事實は如何、多少の凹凸、多少の起伏は之れ有り、然れども山となり龍虎を成すを見ず、失望落膽、只夫れ漢江の廣きと思へば決して想像に難からず、由來實際を書かんとして實際を書き能はざる文人墨客の徒が名勝を寫す筆の誇張に流れて後の遊子をして此嘆聲を發せしむ比々皆然り、豈に我鴨綠江を傳へたるもののみに詰めんや、橋は確かに見るべし、形容に難し、文字を臚列せんより僕は只漢江の鐵橋を大きくして長くし兩側に步道(車馬も通ず)を附したるものと平凡に紹介するを妥當と信ず、誰やら曰く『寺內閣下のサーベルも此所迄は達くまい』と、新春劈頭の警句と思ひつゝある間に滊車は安東縣驛に入る、下車一步にして鬢髯悉く白し、新橋氏に別を告げ構內を潛り月光を浴びて橋畔に立つ、傍して曰く『朝鮮總督府所管』と橋の半にして此所迄は達くまいと思つた寺內閣下のサーベルは、實に此所迄達いて居るのなり唐土まで達くもの獨りた竹さんの夫れのみならんや、哨舍を背後にし寒風を冒し嚴として立つ哨兵君、僕が帽を去りて慇懃に禮せるに氣を付けの姿勢を執る攻心に其勞を多謝し其苦を思ふ、熱涙の類傳ふよ、捧持せる銃劍は氷が如き月影に照り映ゐて森嚴の氣は我が頭上を壓し來る、ア、護國の鬼神、再び拜禮して哨舍の傍に衞兵所の燈の耿きを見つゝ步を轉じて橋を横ざまに見る、翁の荒海や佐渡に横ふ天川は直ちに以て此を形容すべし、蜿蜒幾千尺、末は遙かに大空に連るかと怪しまる、結構偉大なり、步道幅七八尺もやあらんか、江風鼻下に氷柱せしむ、月は霜を吐き、即ち辭し人車に賃して玄風山颪に送られて三番通四丁目喜久旅館に入る。

中學生の諭示退校

▽竹下學生監の談

總督府中學校に於て此程退校處分を受けたる者數名ありとのことに事實の眞相を聽くべく隈本校長を訪ねた相憎く同氏不在にて竹下學生監代つて語るらく『退校處分に非ず諭示退校とでも云ふべきか學力劣等にして品行不良なる七名の生徒に對し父兄に到底業を了ふる見込み無きを以て其の旨懇談したる處父兄側に於ても屢々のことなれば涙を嚥んで去る十二月二十八日退校届を差出だしたるものにて由來本校生徒は內地のソレとは全く反對にて一、二年生に比較的不良の生徒多く三、四、五年と進むに連れて漸次良好となるの傾向あり殊に內地に於ては二年間現級に停まる者は放校處分を爲す規定なるも本校にてはさる規則なく出來得る限り誘掖啓發して業を了へしむる方針を執りつゝあるが這回退校したる連中は何れも二年級にて二回以上現級に停まりたる者にて成績は平均四點以下品行と謂へば口にするさへ好ましからず月謝を費消するは勿論衣服を入質し一飲食店に登り同級生を恐迫する等言語同斷の行爲多く百方手を盡くして訓戒するも更に悔悛の色無きより止を得ず此の擧に出でたるものなり畢竟學校と家庭との連絡充分ならざるより斯かる悲しむべき現象を見たるものなれば此後は學校に於ても一層生徒の監督を嚴にし本校の趣旨を貫徹するの決心なれば同時に父兄側に於ても誘惑多くやゝもすれば墮落の淵に陷らんとする子弟の上に甚大なる注意を拂はれんことを望んで止まず云々』と

惡婆ミヤの平生

▽前身は魚行商人

新町遊廓大和新地三樹屋樓主林ミヤ(四三)が抱娼妓を虐待する爲め抱娼妓の一人外川マサ(二七)は虐待に堪へ兼ね去る十二月三十日逃走せしに樓主は不埒にも同人に對し竊盜の指名告訴を爲し誣告なりし事露見し南部署に拘留五日に即決されし事は既報の如くなるが逃走せる娼妓外川マサは馴染客なる龍山京町若泉鐵工所雇人中山安藏を便り救助を求めつゝありしが三樹屋の搜査嚴重にして發見せらるゝ恐れあり再び三樹屋に逆戻りして虐待せらるゝより死したが增しと毒藥自殺を謀り死に切れずして龍山憲兵分隊の檢視を受け三樹屋に引渡され目下苦悶中にて生命危篤の由なるが彼れは渡鮮以前は岐阜の遊廓內に於て魚類行商人なりしも名高き女破落漢にて警察署の注意人物となり遂に諭示警戒令を受けたる位の女にて渡鮮後は市內明治町一丁目に小料理店を營み幾多の酌婦を虐待し昨年六月小料理店集中當時の如きは官憲に反對者の主謀となり種々なる惡辣手段を弄し彼の請負師野村に南山町松葉亭に於て操られし事さへありき然るに其の惡辣手段は其の効なく遂に大和新地に移轉したるが移轉後に於ける彼れの体度言語に絕し抱妓が入院を命ぜらるゝさ宇野健康診斷醫に暴言を吐き退院遲ければ杉原治療醫に暴言を吐き或は取締安川清月樓主に狂ひ掛る等其の例を擧ぐるに遑あらず又彼れの行動が如何に惡しきかは仲居が一週間と繼續して勤めたる女なく目下日曜樓に勤めつゝある仲居松田よねが三ヶ月繼續せしも彼が余りに不道義極るより暇を貰たる際の如きも客より玉代三圓五十錢を受取乍ら五十錢を詐欺したりと誣告し其筋に持出し客迄取調べ同人より謝罪したる事さへありきと云ふが實に憎む可き惡婆と云ふ可し

忌はしき姦通沙汰

▽本夫の盲目を奇貨とし

明治町二丁目七十番戸居住松尾平之助(四〇)の妻さめ(三九)は夫平之助との間に儲けたる子供二人もあり乍ら平之助が盲目なるを奇貨とし自分より九歳も下の男と姦通をなしたる爲め有夫姦の告訴を受けたるが姦夫は大和町一丁目居住大森長三郎(三〇)なる者にして大森と平之助とは昨年五月頃より知合となり平之助が盲目なると共に松尾は獨身者なるより家事の世話を爲す可しとの名義にて同七月上旬より同居し素人下宿の如く爲り居たり然るに不貞腐されのさめは夫平之助が盲目なるを奇貨とし大森を自分の方より挑み破倫の姦通を爲すに至り本夫を虐待し姦夫に對しては食事の如きも特別に待遇するに至りしを誰れとなく噂するより平之助に知れ昨年十月頃には夫婦喧嘩絕間なく或る時は好きな大森さんと姦通罪で告訴されて懲役三四年位共に入獄するのは本望なり杯暴言を吐き近隣の者も度々仲裁して遂に十二月上旬大森は大和町に別居せしが不貞のさめは尙ほ々しく同月中旬若草町一丁目に温突を借り受け姦夫長三郎と密會爲しつゝありしを本夫に取押へられ此程告訴されたるなりとは驚く可き姦夫姦婦かな

羽織大盡の罪狀

▽大和商會主人の弟だ

兵庫縣人當時住所不定池田修吾(二〇)が紋付羽織を着流し紳士然として新町遊廓大和新地中の新地桃山遊廓等にて身分不相應の遊興を爲しつゝありしが詐欺竊盜罪ある事を長野佐藤岸三刑事に探知され逮捕取調中なりし事は羽織大盡の正体と題し既報の如くなるが其罪狀は昨年六月十二日より十二月迄の間に於て本町六丁目松本某方に忍入り衣類十五點(代百餘圓)外數ヶ所にて金品數十圓を竊取し又昨年十二月二十二日櫻井町六十番戸雜貨商下村吉藏方に大和商會主人の弟なりと稱し店員に雇はれ翌日元憲兵隊司令部付高田大尉宅外數軒より賣掛代金數十圓を横領し又同十二月三十一日の夜花園町杉本質店に至り金鍍銅製指輪を純金指輪と稱し入質金十五圓を詐取したるなりとぞ

若遊三の大迷惑

▽全く事の行違ひ

當地浪花館にて興行中の落語家若遊三が北海道函館區惠比須町安直亭立花圓好と本年正月興行を豫約し手付金三百七十圓を詐欺したりとて訴へられ取調中なりしとは既報の如くなるが南部署に於て取調の結果彼れ若遊三が落語的に事件の眞想を申立たる所に依れば昨年十一月中旬より交涉中にて最初手付金五百圓なりしを十二月二十七日に至り三百七十圓を電報爲替にて送金し來りしも期日切迫して出發出來ず爲めに該金三百七十圓は浪花館主に預けある由にて全く事の行違ひなりしとは結構

李址鎔伯告發さる

▽賭博犯人として

李王家の親戚として貴きに朝鮮貴族に列せられ伯爵を給はりたる李址鎔は身貴族の班にありて一般世人の儀表たらざる可からざるにも係はらず不心得にも過日檢擧せられたる井手三郎氏の事件に關聯し賭博犯として其筋に檢擧せられ審理中なるが證據歷然たる由なれば早晩有罪の決定と同時に貴族の禮遇を停止せらるべしと云ふ

賊、山腹に穴居す

▽總督府官舍を襲ふ

十一日午後四時頃西大門分署の酒井刑事が西大門通りを通行の際ノリヤ』襯衣外數點を抱へたる怪しき鮮人を認め引つ捕へて訊問すると斯奴は總督府中學校背後の山腹に穴居する李奉鐵(二八)とて西大門內總督府官舍より洗濯物を竊取し來たりたることを自白したるが餘罪ある見込みにて取調べ中

奥村千里は四年

▽寢覺めの惡ひ萬龍榮次

既報官金横領犯人奥村千里(三九)は十二日付京城地方裁判所刑事部裁判長塚原判事より懲役四年の言渡宣告受けしが彼れは悄然として退廷看守に護されしが四年間獄舍住も第一樓支店の萬龍を筆頭に彼の榮次等の色に迷ひし爲めなりと若き時血氣未だ定まらず之を戒むる色にありとチヨンガレの文句通りなり

●温突內のた花見　十一日午後三時半西部紫門洞八の二朴雲連(三〇)方に於て元警部にて目下賭博を常業となし居る中部表洞十八の十崔昌植(五三)外十數名が温突二間に別れ車座になつて賭博の最中西大門分署の大牟田、高宮、金、李の四巡査に踏み込まれ數名は隙を覗つて逃走したるが前記外九名を逮捕し證據物件として花札七十一枚朝鮮骨牌三十三個銀杏實六十四個を押收し身柄は珠數繫ぎとして引致取調中

●四十圓で十ヶ月　原籍廣島縣高田郡志屋村生當時仁川白石旅館滯在寄下淸助(三二)が到る處他人に迷惑をかけ窮餘の結果論山料理店野見山定吉を欺き電報爲替にて前後三回に四十圓を詐取し告訴せられ檢事局に送られしは已報の如くなるが十日京城地方裁判所仁川支部に於て懲役十ヶ月に處せらる

●賭博中を御用　福岡縣人當時旭町一丁目林辰五郎(四三)香川縣人當時御成町一八二番戸小谷濱二(四四)長崎縣人當時旭町一丁目一五三番戸高木庄十(四二)の三名は十一日午後三時頃辰五郎方にて賭博を爲南部署に檢擧され目下取調中

●キドツタ朝鮮人　獨逸人カウスキー氏が西大門外に積み貸きたる古材木を何者にか竊取されたるを十一日に至りて發見し西大門分署に訴へ出でたれば酒井刑事は早速犯人搜索に着手同日夕暮西大門內圓覺社前の飯屋に潛み居たる李瓦卜(三〇)なる事判明し引致取調中

●店員の家宅侵入　本町四丁目松尾商店雇人富山縣人東郷伊平(二〇)は南部龍洞九十七統一戸大工職竹內三和二郎方に夜中忍入り家宅侵入として南部署にて取調中

●這入がけを捉る　南部草洞八十七統十二戸丁雲鶴(三五)は十二日午前一時頃旭町三丁目十全病院裏門より忍入らんとする處を南部署警官に認められ本署に引致目下取調中

●公判だより　李太王殿下よりコールブラン氏に對する訴訟事件本案の第一回公判期日は來る十五日午前に決し居たるが辯護士の都合に因り延期せらる可しと

●演藝だより

▲浪花館　三遊亭圓若一行の落語音曲
▲壽座　十三、十四兩日の代狂言は前『難波軍記大阪陣屋』にして切は『三勝半七酒屋の場』にて一同大車輪の働き
▲歌舞伎座　改成義團一行にして十三十四兩日の代狂言は『執念の蛇』なりと

平民文庫

▲總督府中學校教員中に二派を生じ大に軋轢し學生監某は校長の威を籍りて横暴の振舞がある相だが果して事實か(一父兄)▲中學校では本年五六名の生徒を不良少年と認めて諭示退學處分をした相だが果して不良少年であるか(同上)▲二圓半出しの新年宴會に賛成しないので折角非番の日を二課長の御命令で勤務せしめられた人があつたが今度甲部の宴會にはドーゾ斯樣な處置のないようにた顯ひします(貧乏看守)▲目下浪花館にて開演中の若遊三が十八番元祿節を御存じの方は何卒御敎へ下さい(顯好生)▲以來斯樣なのは當人へた聞になるが捷徑です(小僧)▲總督府秘書課のシシド男爵は養子の身分であり乍ら云々は沒(係)▲浪花館で三遊亭圓若を贔負客に紹介する表看板の前口上に『梅玉春を報じ和風萬里芳薪更に新なり(中略)本館這回大阪落語界の泰斗三遊亭圓若を聘し』とある、されば今朝は怒風烈しうして小砂眼入すと云ひたくなる(木戸窺き)▲田中守平が壽座でガクセツ發表講演會をやる相だが夫よりは早く何處かへ引つ込んで魔法をた使ひになる方がた爲めでげしよう(への字)



りん病患者に警告す

サンタールが淋病に特効ある事は今や天下の認識する處となれり而かも淋病は初より尨大なる藥効に依頼して一般の信用を博するに至れるは弊店の誇とする處なり
抑も淋病の如き疾患は其藥効の見易きこと恰も外科醫手術の巧拙と均しく患者自身に於て直に輕快を自覺すると否とに由り容易に判斷することを得るを以て何人と雖も之を欺くに由なし而して市上淋病の特効藥と稱するもの枚擧に遑あらずと雖も獨りサンタールが其名聲を擅にする所以は其優越なる藥効が幾多淋病藥中一頭地を拔くものあるが爲めに外ならず
●本品獨特の長所
本品は内服して一種の化學的變化を起し強度の防腐殺菌液となり尿と共に排泄せられ自然の洗滌法となるを以て淋病菌を其根底より驅逐するにはサンタールの外又良藥なし

登錄商標
りん病
複方 大學病院方劑
サンタール SANTAL

藥價
急性用三週分三圓五十錢、慢性疳疾用特製分三圓五十錢
用二週分一圓八十錢、二週分一圓二十五錢、一週分
六十五錢、小包郵送
京都市二條木屋町振替大阪三三四番
本家 藥學得業士 濱田北辰堂藥局

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房
電話九〇四番一〇六八 振替口座 京城 十六番



にせ物御注意
振替大阪七七八
胃病そうみん 飲みすぎ食ひすぎには いかいいさん
猪飼胃散
定價 十五錢 廿五錢 五十錢 一圓
本舖 大阪江戸堀 猪飼史郎

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房
電話九〇四番一〇六八 振替口座 京城十六番

恩給
全部無利子 恩給年金低利長期貸付
一時賜金手數料一割
今般右營業開始仕候
大門外神戸屋ノ分も
取扱可申候
京城櫻井町八四
山口屋

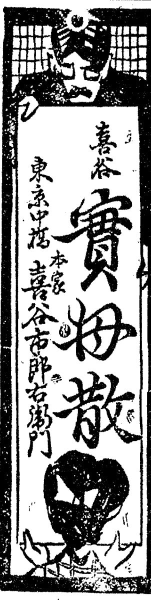
株式會社 第一銀行京城支店
資本金 壹千萬圓
積立金 六百貳拾萬圓
明治六年設立
京城南山町三丁目
電話一一番 六一一番
振替貯金口座京城一一番
銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候

船來アイボリー石鹼



米國製 アイボリー
石鹼に僞物あり 包紙に御注意を乞ふ

朝鮮銀行
當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候
電話 參參壹番 壹貳六〇番 六百貳番 壹貳六壹番
支店出張所（大阪、仁川、平壤、元山、大邱、鎭南浦、木浦、釜山、群山、馬山、城津、羅南、新義州、安東縣）
右ノ外内外主要ノ地ニ爲替取引先有之候



喜谷 實母散
東京中橋 本家 喜谷市郎右衛門
朝鮮代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房

最上醬油
高
釀造元 仁川港萬石町
高杉醬油釀造場
電話七六五番

新築落成御披露
京城長谷川町二丁目
佐藤旅館
電話八八九番



世界一のかぜ藥
全國藥店にあり
ねつ・はやりかぜ・づつう・りうまちすに大効あり
蛇印 アンチピリン丸
藥價 五錢・十錢・十五錢・廿五錢
發賣 大阪心齋橋二丁目 丹平商會
本舖 東京日本橋通 丹平商會
代理店 京城 新井藥房
電話九百四番、一〇六八番 振替口座 京城十六番

京城旭町一丁目
齋藤齒術所
電話一四一四番

比較ハ最良ノ選擇法ナリ



優等清酒
櫻正宗
釀造元 攝津灘 山邑太左衛門
釀造高貳萬余石
山邑京城支店 京城明治町二丁目（漢城病院前）
電話八四九番 振替貯金京城七五番
市内到ル所ニ販賣店有之候ニ付櫻正宗ト御指定御買上被下度候

瑞西タバン懷中時計會社朝鮮代理販賣店
△米國ウォルサム懷中時計朝鮮特約販賣店
△米國アンソニヤ掛置時計朝鮮特約販賣店
日本掛置時計明治時計會社朝鮮代理店販賣店
△各種貴金屬類御小賣店
▲各種蓄音器卸小賣取次店
各官衙諸會社御用達 時計御小賣商
京城南大門通三丁目（電話一〇五番）喜多金光堂本店
仁川本町三丁目（電話七〇五番）時計商 喜多金光堂支店

齒科診療
京城本町二丁目三越呉服店前 野田齒科醫院
仁川仲町三丁目末永呉服店隣 野田齒科醫院分院

眺望の好き事 第一なり
陸軍指定旅館
鐵道院指定旅館
仁川水產組合指定旅館
各保險會社指定旅館
弊館には夜警の設備有り
御客樣の安全此の上なし
仁川海岸
旭屋旅館
電話二五一



朝鮮名產
補血强壯無比の珍菓
人蔘清
人蔘漬 人蔘蜜漬 人蔘飴
製造元 海市商會
（振替口座京城四八番）
本店 京城本町三丁目（電話二五〇番）
第一支店 同本町一丁目（電話一三五四番）
第二支店 同本町五丁目（電話三三二番）
大邱支店 大邱元町二丁目（電話三二〇番）
木浦支店 木浦銀座通
工場 京城永樂町一丁目（電話一九〇二番）

創立明治五年六月
資本金 百二十五萬圓
積立金 六十万七千圓
通
貨物運送取扱 危險擔保運送 貨物引換證發行 品代金貨物取扱 稅關貨物取扱
內國通運株式會社京城支店
本店 東京市日本橋區佐内町三番地
支店 京城南大門驛前 電話長七〇八、一二五 一七九
釜山驛前 釜山出張所 電話三五七
草梁驛前 草梁出張所 電話八〇四、六一六
仁川驛前 仁川出張所 電話長三八
龍山驛前 龍山派出所 電話五一一、二六
平壤驛前 平壤出張所 電話長二〇六

優等清酒



釀造販賣元
仁川港
吉金酒店
（電話七六四番）

M.C.C.
土耳古卷紙 エムシーシー
專賣局定價は日本に付金九圓貳拾錢なるも朝鮮内は大安賣
京城、平壤龜屋……釜山、木浦、群山高瀨支店

効能ある温泉
鐵冷温泉
旅館並に浴客席貸
京城長谷川町一丁目（朝鮮銀行北横手）
廣安喜次郎
電話一四一一番

酒精アルコール
直輸入元
仁川花町一丁目（電話六五〇番）（電略サ）振替口座京城五八二
坂倉支店

本場精撰
茶
右銘茶各種新物續々入荷に付御小賣さも大勉强仕候間多少に不拘御用命願上候
仁川本町四丁目（齋藤通）
田中芳春園
電話四五〇番 振替京城五〇二番

商標
京城南大門通二丁目
三味噌
製造元 遠藤廣吉商店
（電話九八二番）

一月中
汽船出帆
キ
三省丸 濟州島行 一月十四日前十時
大草丸 濟州行 一月十三日前八時
成歡丸 屯串行 一月十五日前九時
安來丸 海州行 一月十四日前十一時
三省丸 大湖芝行 一月
荷客取扱所
仁川本町四丁目 秋田商會支店 電話一七三番
合資會社 秋田商會船舶部 仁川本町一丁目 電話七五〇番
秋田商會船舶部荷捌部 仁川本町海岸通 電話四一九番
柴田回漕店 仁川本町四丁目 電話五二二番
山本回漕店